

将来のNーバスについてのワークショップ開催結果について

1. 目的

Nーバスが運行を始めてから15年が経ち、その間に路線の見直しや様々な取組みを重ね、利用者数は年間20万人を越え、最も利用が多かった愛・地球博開催年の利用者数に近づきつつあり、市民の大切な移動手段の1つになっている。

これからのNーバスをよりよい公共交通とするためには、行政や交通事業者だけでなく、市民の皆様とも一緒になって「育んでいく」ことが大切と考え、以下の大きく2つのことを目的としてワークショップを開催した。

- ① 今後5年、10年先を見据えたNーバスのあり方について市民の皆様と一緒に考える。
- ② 公共交通をより多くの方に利用してもらうための情報発信と、市民と共に支える仕組みの土台を築く。

2. 参加者

9月末より10月25日（金）を申込み期限として、市ホームページや広報紙を通じて募集を開始し、14名の参加希望があった。

3. 開催状況とテーマ

ワークショップは、11月より月1回の頻度で計4回開催し、以下のテーマで意見交換を行った。

また、2月8日（日）に開催された「公共交通交流会」において、『Nーバスに関するワークショップの取組みの紹介』と題して、ワークショップに参加する2名の市民の方によって発表が行われた。

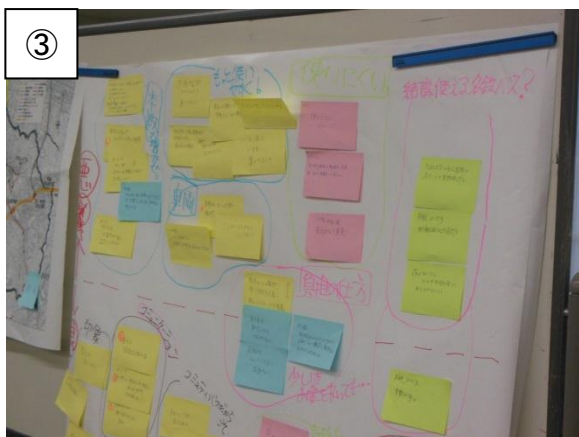
開催時期	テーマ
第1回 11/30(日)	・ご自身の、お互いの、長久手市の公共交通 - 今の印象
第2回 12/21(日)	・長久手市と市の公共交通のいいところ・わるいところを洗いざらい
第3回 1/25(日)	・地域公共交通の将来と利用促進
第4回 2/22(日)	・今後のNーバスのあり方

4. 各会の進め方

- ① ワークショップの参加者を、グループに分ける。
- ② 各グループの進行・まとめ役はグループの中から選任し、開催ごとのテーマに沿って、グループ内で参加者の意見を交換。



- ③ グループ内で出た意見を、グループごとでまとめる。
- ④ 最後にグループの意見として、みんなの前で発表して意見を共有。



- ⑤ 開催後に事務局で出た意見を集約し、次の会議で参加者とともに内容を確認。
(意見集約の例は、次頁参照)

5. 今回のNーバスの見直し計画への反映

今回のワークショップで出された様々な意見は、今後のNーバスに関する検討の参考として活かしていく。

様々な意見の中でも、Nーバスに関する意見を再集約し、『今後5年、10年先を見据えたNーバスのあり方に関するワークショップで出た意見の概要』として別紙にまとめた。